

田迎校区各町内「夏まつりいろいろ」

一町内 夏まつり

七月三十日(出午後五時から一町内の夏まつりが田迎三丁目公園にて行われた。

はじめに田迎太鼓の勇壮な演奏が行われ、夏まつりの雰囲気を感じた。会場には、ポップコーン、わたがし、スーパーストール、金魚すくいのコーナーが設けられていた。また、子どもによる空手演舞やフラダンス等が行われた後に子ども達が思い思いに各コーナーに走って集まっていた。全て無料となっていて、子ども達は金魚すくいにスー



二町内 夏まつり

八月六日(出午後七時半より出仲間公園において二町内の夏まつりは行われた。

公園の中央には大きな舞台が設けられていた。まつりは、住民総員による総おどりで始まった。中央の舞台には着物姿の女性の方が踊り、周囲は大人も子どもも一緒に踊って大い輪を作った。踊り終わった後は、カラオケ、おどりと交互に行われて、九時すぎまで行われた。まつりに集まった人は二百名を超えていて大盛況であった。



子ども達や大人にも飲み物等が配布されていて、まつりは夜おそくまで続けられていた。

三町内 夏まつり

八月六日(出七時から三町内の夏まつりは砂入公園にて行われた。まつりは、初め全員による総おどり(炭坑節)があつて雰囲気を感じ上げた。まつりには、やきとり、パザールが行われ、カラオケ、シャトルゲーム、ビンゴゲームのゲームなどがあつた。各ゲームに参加した者は賞品が与えられた。まつりの後半では子ども

達による花火大会などがあり、参加者全員に対して福引きが行われた。特賞、一等賞と賞品が当たった。最後にまつりの会場を掃除してまつりは終了した。

五町内 夏まつり

七月三十日(出午後六時三十分から田迎神社前の公園にて五町内の夏まつりが行われた。

はじめは、一町内と同じように田迎太鼓の勇壮な演奏が行われて、まつりの雰囲気を感じ上げた。その後、舞台を中心にして子ども達によって、スイカ割りが行われ、子ども達の大笑いがあつた。盆おどり等が行われた。子ども達には、ポップコーン等が無料で配布されていた。また、ジュース等も配布され、ゆかた姿の子どもも大人も舞台を中心にして踊っていた。

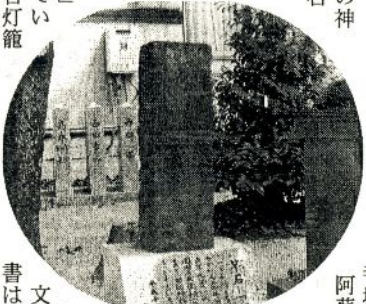


田迎の史跡めぐり

シリーズ④

灯籠竿石

田迎神社境内に、目の神様と称している小さな石の祠があつて、その横に四角い低い石碑があり、その表面に刻銘がみえる。銘文は中央に「阿蘇甲佐大明神御廟前」右に「藤原朝敬白」左に「貞享元年甲子歳九月吉祥日」圍田五兵衛尉頼宣「寄付石灯籠」



「施主敬白」と刻まれている。この石はもととも石灯籠の竿石で現在は火を灯す部分や竿石は「目の神様」の祠の

台座に使われているそうである。熊本県神社史には、「貞享元年九月禅林寺境内に甲佐大明神と称えた。明治になって禅林寺は廃寺となり田迎神社と改称し田迎の氏神となつた。」とあり、圍田氏が寄進した灯籠の竿石に刻まれた年月と一致する。天満宮に新旧二神体の存在から考えると大明神の勧請以前は天満宮を氏神様として祀り、田迎(圍田)次郎左衛門尉頼宣が書き遺した寛文八年(一六六八)の宮座古文書はその時のものであるとも考えられる。

たむかえ散歩より

第三十三回 出仲間秋祭り演芸会

九月十一日(日)午前九時三十分から二町内の第三十三回出仲間秋祭り演芸会が開催された。この会は豊かなふるさとづくりに貢献された方々への感謝と町内住民の親睦と触れ合いのために始められたものである。会場の大ホールには百名以上の住民が朝早くから大賑いであつた。太田自治会長の挨拶のあと、演芸会



は始まった。会の進行は子ども会関係の人が行い、舞踊、ダンス、カラオケと進められた。皮きりは益嶋絢子氏による舞踊「秀麗の舞」から始まる。各地区の子ども会は合唱をうたい、かわいい舞踊もあり、本当に楽しげであつた。演芸会は午後まで行われた。来場した全員にチューリップの球根の配布等のみやげがあつた。最後に花の鉢の福引き抽選会が行われて、大きな植木鉢を貰って帰っていた。大勢の人の参加した出仲間演芸会は大盛況の内に終了した。

田迎小分離校建設の現況

熊本市は田迎小の過密解消のために分離校の本体工事を今秋から着手した。平成二十五年四月開校を目指し、現在はいく打打ち工事を進めている。平成二十一年八月に分離校の通学区域を決め、二十二年度までに用地造成を完了している。敷地面積は約二万四千平方メートルで、南側にグラウンド、北側に鉄筋コンクリート四階建ての校舎と体育館、プールを配置するとの事。校舎はランチルームがT字型に張り出したユニークな外観で、太陽光発電や雨水再利用など環境に配慮した設備を整えている。来年度にプールの建設工事に着手し、校舎とともに二十五年一月末の完成を目指す。

編集後記

まだまだ暑い日が続きます。体調には充分気をつけてお暮しください。熱中症やなつ風邪には注意してください。れいすいは、百四十号を越えました。今後ともよろしくお願ひします。